

はじめに

社会環境が激変し、ここ数年、税制も何度も改正されてきました。21世紀になつてからも、環境問題を意識したものや（排ガス規制車を優遇する「グリーン税制」）、景気を下支えするための住宅ローン減税や、住宅取得資金贈与枠の300万円から550万円への引き上げ、酒税の増税などを盛り込んだ改正が行なわれました。

2003年になつてからも、法人税には「連結納税制度」が導入されました（[↓P 134](#)）。また相続・贈与税も税率の改正や相続時精算課税制度の創設などがありました（[↓P 166](#)）。さらに所得税では配偶者特別控除の上乗せ分の廃止（[↓P 96](#)）などの改正が行なわれました。

しかしそれにしても、税金のしくみはややこしくできています。これは裏を返すと、それだけ緻密にできているともいえるのですが、一般の人々にどうては、もう少しわかりやすくしてほしいと思うのも当然かもしれません。

それはおそらく、納税者の税金に対する不公平感や重税感、さらに税金の使い途に対する不満、税務行政そのものに対する不信感などがあるためでしょう。

たしかに、今日の税金にはいろいろな問題があります。しかし一方で、納税者の意識や知識不足からくる思い違いの部分があることも事実です。税金は国家収入の根幹です。もつと税金をよ

く知り、その使い方に目を配り、納税は義務であるだけでなく、国家運営のコストを納税者が負担するという積極的な気持を持つことも必要です。

本書は、所得税、法人税、相続税など、基本的な税金の構造としくみをわかりやすく解説したものです。専門用語も、できるだけ避けました。また、単にしくみだけでなく、実際に税額を算出するときの手順や、控除の額なども、可能な限り掲載しています。

つまり、入門の入門から、税額の計算までがわかる本になっています。

またこの本は、次の四点にポイントを置いて執筆されています。

税金に関する基本的な事項の解説をする。

税金のことを知らなかつたために、余分な税金を納めなくていいように解説する。

実際にどれだけ納税しなければならないか、ある程度自分で計算できるように解説する。

図解を使って理解を助ける。

しかし本書は、いろいろな税金のしくみを横断的に述べたものです。また、膨大な内容をコンパクトにまとめたため、部分的には苦足らずになったことも否めません。複雑な事例は改めて別の専門書を読むなり、税理士などに相談することをお薦めします。

本書は、税金を知るための「入口」ともいえるものなのです。

この本の制作、執筆にあたつては、東京税理士会世田谷支部の23名の会員が参加してくれました。多くの会員の協力なくして、この本は出来上がりなかつたでしょう。

みなさんの努力に改めて感謝いたします。

「こんなとき、いくら税金がかかつてくるのだらう」

「なぜこんな税金がかかつてくるのだらう」

「そもそもこの税金のしくみは、どうなつてこるのだらう」

……そんな疑問を抱かれたとき、この本を開いてください。きっと答が見つかるはずです。そして迷つたら、お近くの税理士に相談してみてください。私たち税理士は、「税」のコンサルタントなのです。

2003年5月

東京税理士会世田谷支部支部長 稲屋 嘉男
出版事業特別委員長 梅田 泰宏

附記：

税制は基本的なところは変わりませんが、毎年細かく変化します。税率などの数字は変わることがありますので注意してください。本書で取り上げた内容は、とくに断りがない限り2003年（平成15年）の税制に従っています。